

平成 27 年 3 月 4 日

平成 26 年度第 3 回瑞浪市地域公共交通会議

第 2 回瑞浪市地域公共交通会議の概要

1. 協議事項

- 検討事項 1 瑞浪南中学校のスクールバスについて
- 検討事項 2 東濃鉄道「瑞浪＝土岐線」廃線（予定）の対応について
- 検討事項 3 瑞浪市生活交通ネットワーク計画素案について
- 検討事項 4 瑞浪市生活交通ネットワーク計画検討分科会の設置について

2. 主な意見・協議結果

- ①瑞浪南中学校のスクールバスについて
 - ・瑞浪南中学校の通学については、利用者を生徒のみとし、一般客の混乗、バス車両の活用などは行わない。
- ②東濃鉄道「瑞浪＝土岐線」廃線（予定）の対応について
 - ・東濃鉄道「瑞浪＝土岐線」の廃線については、市内にほぼ影響がないことから、早急な対応方策は行わない。
- ③瑞浪市生活交通ネットワーク計画素案について
 - ・利用者の移動の実態（地区から中心部か、地区内か）の整理が必要。
 - ・幹線の公共交通路線を残すべき。今のコミュニティバスを残すのかどうかを検討する必要がある。デマンドを導入すると利便性が高いため、利用回数が増え、コストがかかる懸念がある。
 - ・デマンドを誰に使ってもらうのか、どれだけの経費をかけられるのかによって案が決まってくる。
 - ・現行の鉄道、路線バスと競合することのないように、地域特性にあった運行を考えることが必要。
 - ・定時定路線とデマンドのどのような組み合わせが良いか、検討が必要。
 - ・北部に導入予定のスクールバスについても、混乗を含めた検討が必要。

3. まとめ

- ・瑞浪市生活交通ネットワーク計画（案）については、分科会を設置して検討し、その結果を次回の本会議に提案する。

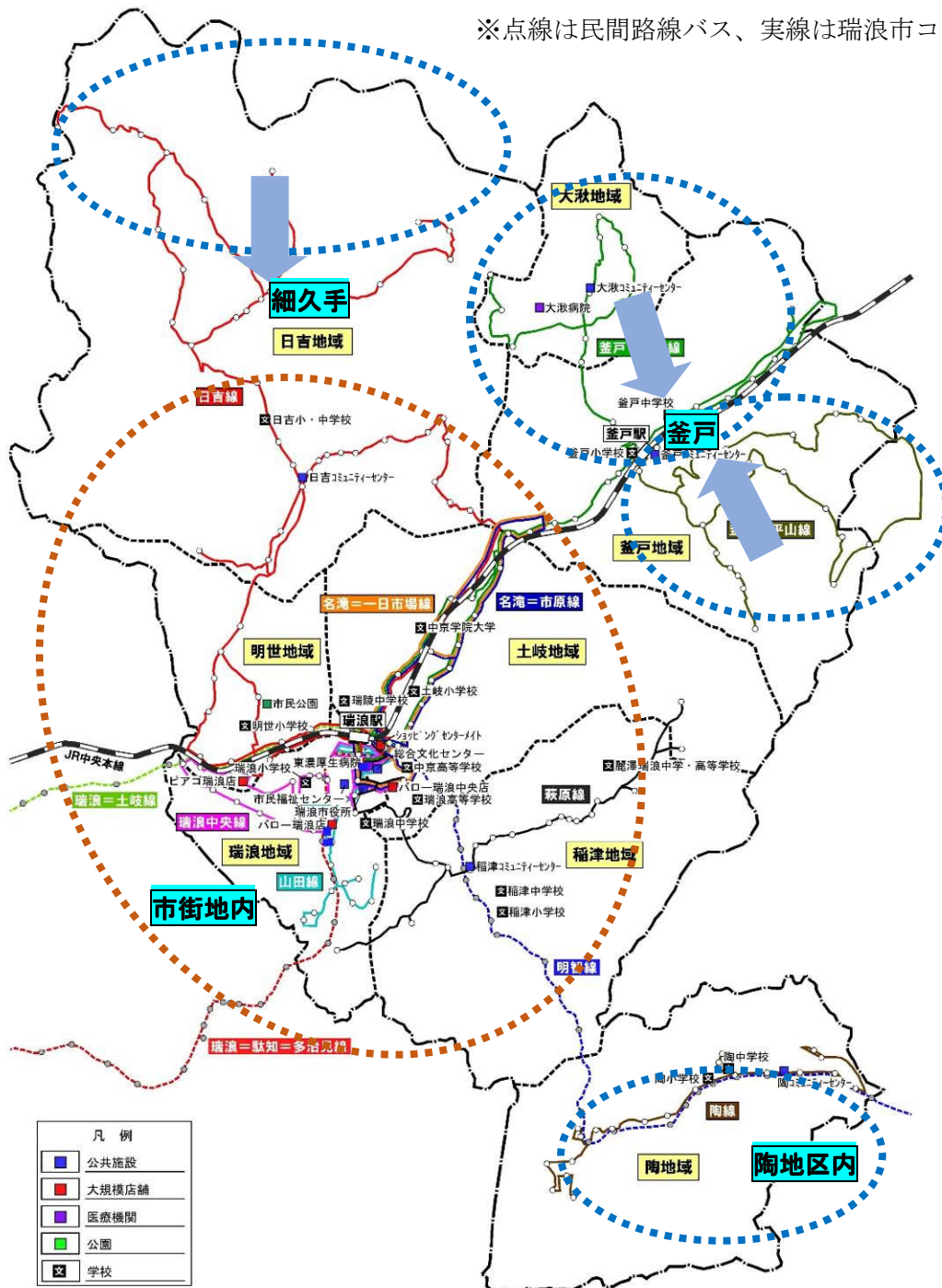
A案：定時定路線（現行ルート）＋ タクシー補助券の配布

●現行のコミュニティバス運行を基本に、交通空白地域をタクシー補助券で補完する

- ・瑞浪市コミュニティバスの運行本数が少ない地域は、バスを運行するだけの需要がないため、タクシー補助券の配布で対応する。
- ・タクシー補助券の利用は、郊外部にあっては、釜戸駅、瑞浪市コミュニティバスの運行本数の多いバス停（細久手など）及び路線バスのバス停までの利用を想定する。（瑞浪駅周辺までの利用になる可能性もある。）市街地及びその周辺では、地区内での利用を想定する。

■A案：現行ルート＋タクシー補助券の運行イメージ

※点線は民間路線バス、実線は瑞浪市コミュニティバスを示す



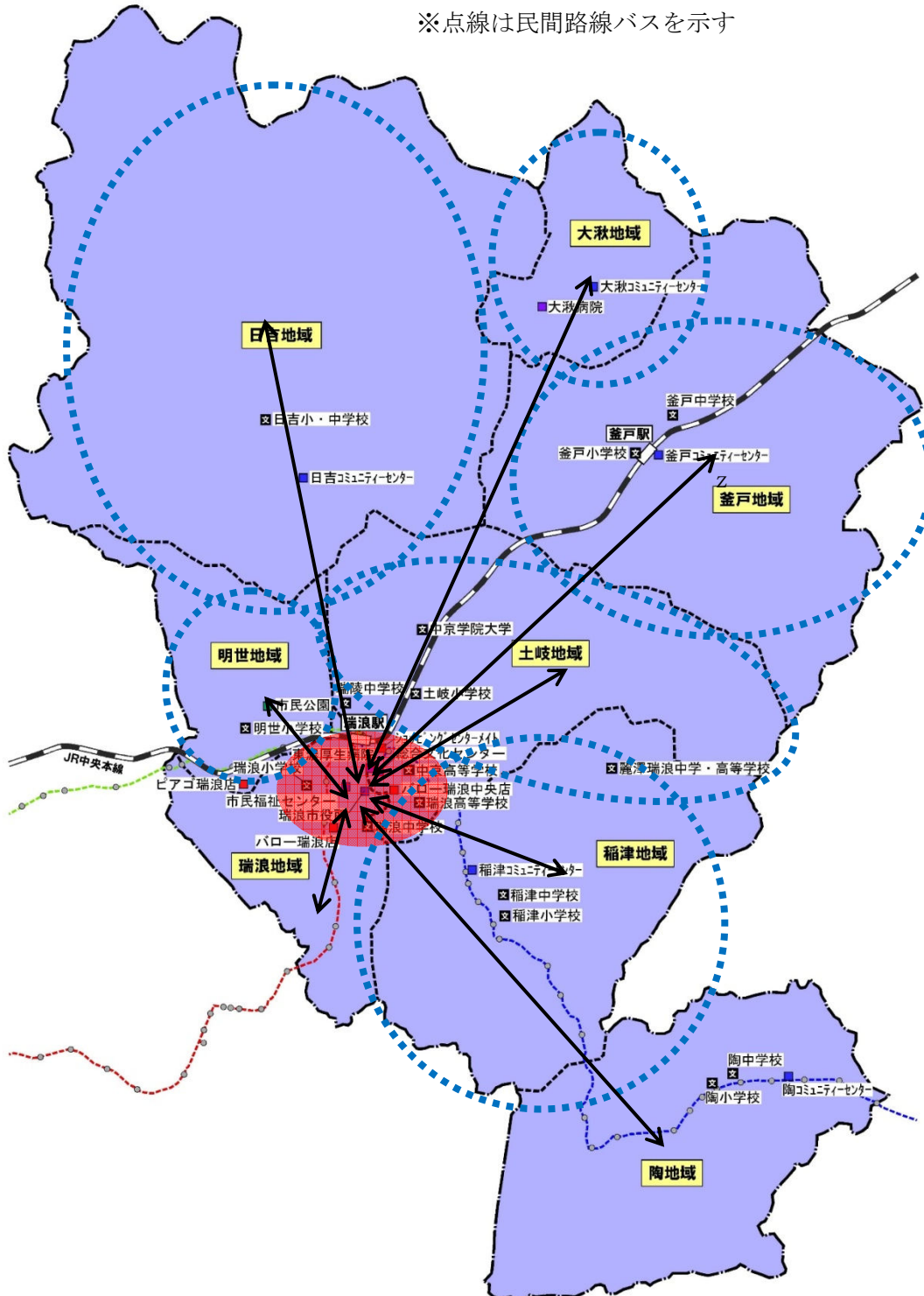
B案：デマンド交通（市全域）＋スクールバス（通学）

●市全域のデマンド型交通を運行し、通学はスクールバスで対応する。

- ・市内の移動は、デマンド型交通（市全域対応）へ移行すし、各地区内と中心部エリア内の瑞浪駅、東濃厚生病院、大規模店舗等へのアクセスのみとする。
- ・中学校の統合にあわせ、小学生も含めてスクールバス対応等を検討する。

■B案：スクールバス＋デマンド交通（全域）運行イメージ

※点線は民間路線バスを示す



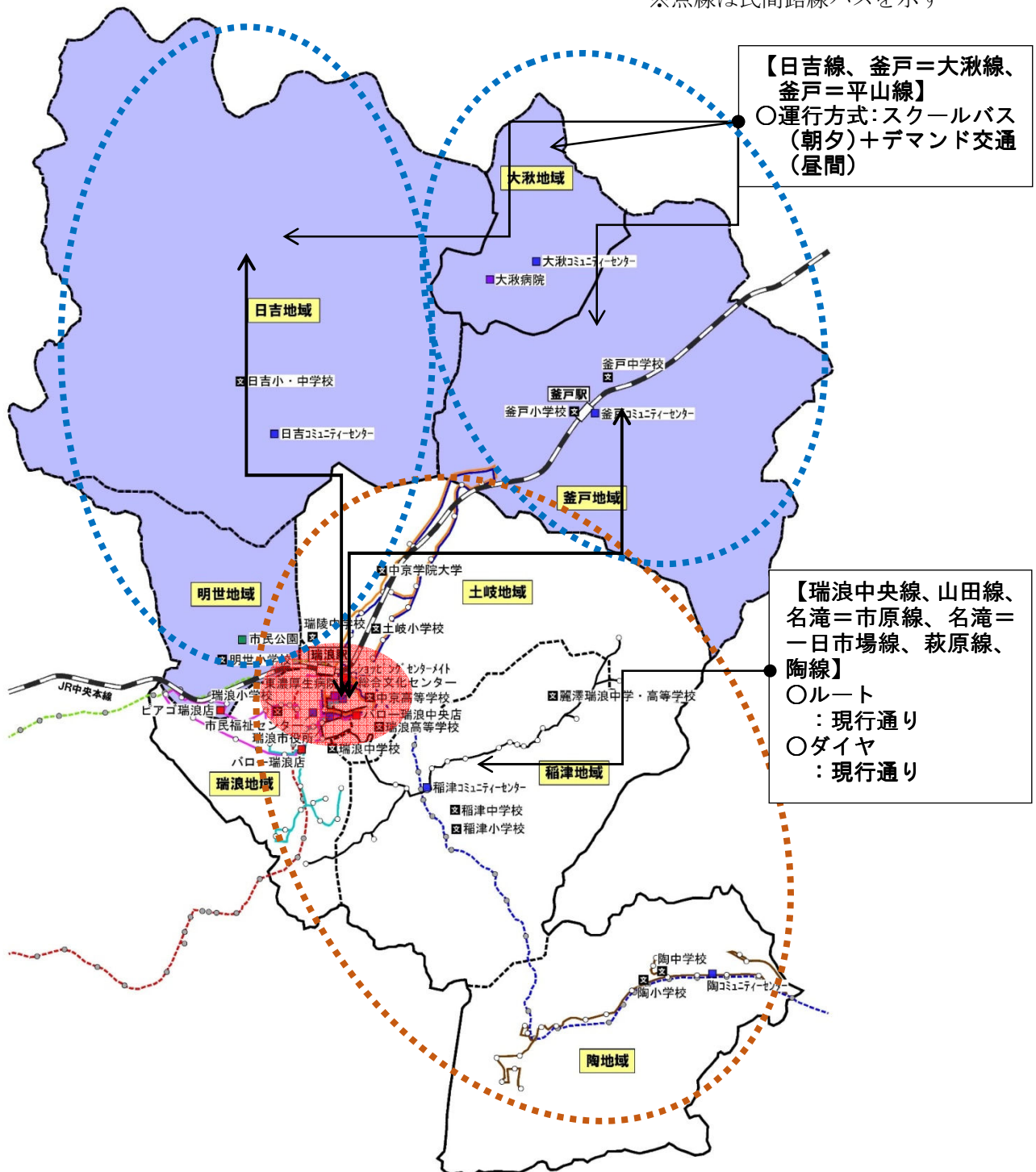
C案：デマンド交通（北部）＋定時定路線（中心部・南部）＋スクールバス（通学）

●北部地域はデマンド交通を導入し、中心部・南部地域は現行通りコミュニティバスの運行、通学はスクールバス等で対応する。

- ・日吉地区、明世地区、釜戸地区については、デマンド交通を導入する。
- ・中心部、南部については、現行通りコミュニティバス（瑞浪中央線、山田線、名滝＝市原線、名滝＝一日市場線、萩原線、陶線）の運行ルート・ダイヤとする。
- ・中学校の統合にあわせ、小学生も含めてスクールバス対応等を検討する。

■C案：北部はスクールバス＋デマンド交通、中心部と南部は現行の定時定路線型イメージ

※点線は民間路線バスを示す



D案：定時定路線（現行ルート、一部路線短縮）＋デマンド交通（端末）

●現行のコミュニティバス運行を基本に、端末地域をデマンドで補完する

（デマンド地域の定時定路線は路線短縮）

- ・コミュニティバスは需要の見込まれる区間だけに短縮する。ただし、存続するコミュニティバス路線区間は増便を検討する。（現行のコミュニティバス路線の通学便を除く）
- ・デマンド交通は、コミュニティバスの運行本数が少ない端末地域に導入する（コミュニティバスの瑞浪中央線、山田線、名滝＝市原線、名滝＝一日市場線がある地域を除く地域）。行き先は、地域内の鉄道駅、主要なバス停に限定（乗継が前提）するものとし、地域住民の意見を踏まえて決定する。

■D案：現行ルート＋端末デマンド交通の運行イメージ

※点線は民間路線バス、実線は瑞浪市コミュニティバスを示す

